

第1分科会  
桑名市

## 自然・歴史・文化など「本物」であふれるまち

まちの魅力を発掘し、磨き上げるまちづくり

永明地区地域づくり協議会 深谷 茂さん

この度、全国大会に参加し、研修、交流の機会を頂きましたのでその概要をご報告致します。

分科会は県下21市町の会場で開催された三重県あげての大行事でした。

昨年は福井県、一昨年は鳥取県、来年は石川県金沢市中心で開催されることが決定しています。前日7日(金)には伊勢神宮参詣も企画され、前夜交流会も用意されていました。開催地の事務局は、一年以上前から準備にかかり当日に備えて企画、実行、運営とご苦労の様子をうかがい知ることが出来ました。次期開催県の石川県、金沢市から来年8月下旬開催予定としての招聘呼びかけの挨拶もありました。

私の参加した第1分科会は鳥取県、愛媛県、福井県、石川県、愛知県、静岡県、東京都、群馬県、と地元桑名市と三重県からの参加者で構成されていました。

11月8日(土)午前6時過ぎJR前橋駅を出発、東京、名古屋を経て午前11時頃に



千羽鶴体験

三重県津市に到着、バスにて三重県総合文化センターに入り参加者全体の昼食交流会に臨みました。昼食後、用意された貸切バスで分科会会場の桑名市へ約1時間の行程を経て、桑名シティホテルで宿泊手続き後、午後3時「六華苑」(旧諸戸清六郎・洋館、和館、蔵や池泉回遊式日本庭園)を散策し、中庭で20人による笙の音色と雅楽を奏でた中での6人の舞楽会を鑑賞、しばし日本の心を音楽と舞で伝えるひとときを堪能する機会を得ました。その後、同所の離れ屋で特製和紙を使い折り紙体験をし、貴重な体験学習をしました。

次に、バスで約30分かけ三重県立桑名西高校を訪問。桑名は竹林で有名なところですが担い手不足で管理不十分なものが多く地元のボランティア「桑竹会」の応援で維持管理しているのが現状です。その竹を一節ずつ切り、中にローソクで灯をともし「竹の十三夜」まつり、その数2,500個。竹林の中に灯る夜景は実に見事な光景でした。大会のために十三夜祭を今日まで延期してくれた由。夜の帳の中、特設の舞台で西高校生が軽音楽演奏、沖縄の踊りや津軽三味線などで盛り上げ、校長先生も挨拶に来場されました。学校と地域をあげて歓迎してくれたこと等桑名市の企画、心配りに感謝。

夜8時からホテルで夕食交流会に臨み、地域づくりの交流会を持ちました。この席には、桑名市副市長も来場され交流会を盛り上げてくれました。21時交流会終了。



十三夜祭(津軽三味線)

翌日11月9日(日)朝食後、小雨模様で雨具を着用し、予定通り徒歩で約2時間桑名市内の名所旧跡を散策し、桑名市が誇る自然、歴史、文化等の「本物」の資源を活かしたまち作り活動を見学、学習、体験と盛りだくさんの企画でした。

桑名市は、木曾三川の河口に位置し、豊かな自然環境のもと、古くから東海道の宿場町として栄え、現在でも主要幹線が集中する交通の要衝となっています。

第8分科会  
松阪市

## 道の駅発創の郷で伝統を後世につなぐ

伝説からはじまる世代を超えたまちづくり

群馬県地域づくり協議会事務局 星野 千春

三重県の中部に位置し、伊勢湾に面する市。松阪牛の生産で知られている松阪市の分科会に参加させていただきました。

高校生が運営している「まごの店」のお弁当を食べながら、集合場所の津市よりバスで松阪市へ。到着後、ガイドさんと共に「珍布(めずらし)峠」をウォーキング。宮前地区のシンボルである道の駅「飯高駅」から出発し、旧和歌山街道を通り、珍布峠を越え、礪石・水屋神社を通り、道の駅へと戻るルートを歩

きました。旧和歌山街道は紀州侯が参勤交代の時に利用されていたとのことでした。

その昔、川に石を投げて波が留まったところを国境としたという伝説のある「礪石」についての説明や、この伝説にまつわり、この地域には水や波に関係した地域が多く、神社も水屋神社という名で水関係の伝説が多く残っていることなど、ガイドさんの案内により、地域の魅力をより一層深く感じることができました。